

五月祭（5月15日、16日）開催見送りについて

5月15-16日に予定されていた五月祭にむけて、皆さん楽しみに準備を重ねてきたことと思います。残念ながらこの日の開催は見送らざるを得なくなりました。今回の判断に至った経緯と理由について説明いたします。

まず、先日東京都において緊急事態宣言が延長されたことに伴い、大学の感染対策レベルを「準1」で継続することとしました。これに伴い、緊急事態宣言期間中に実施される予定となった五月祭を開催することが妥当か、執行部で検討を行いました。なお、これに先立って学生支援課から五月祭常任委員会に対し、実行プランおよび対策をレベル準1でも許容される企画内容に見直すことを依頼し、提出されたプランを元に審議を行っております。

執行部では、保健センターや医学部の専門家の意見を聞きながら、提出された実行プランを検証しました。その過程では、東京都では5000人未満のイベントが許容されること、および「準1」では運動部の他大学との定期戦など中止が困難な課外活動が認められていることも考慮されました。しかしながら、提出されたプランの中には、昨今主流を占めているイギリス型などの変異株の感染拡大を防ぎきることが困難な企画（たとえばレンタルスペースに10名以上集まって企画を実施・配信するなど、類似のケースで感染した事例がありました）が多数見られ、現下の状況での実施は困難と判断した次第です。

なお、上記の判断にあたっては、変異株が20代の若者を中心に拡大しているという医学専門家の知見や、医学部付属病院の重症患者数、逼迫度、変異型の患者の割合などの情報も分析し、この時期における学園祭の開催が社会一般から見てどのように判断されるかという観点も考慮されたことを申し添えます。東京大学の社会的責任として、この局面で五月祭を実施することは難しいと判断するに至りました。

以上のように、大学執行部も皆さんの気持ちを汲みつつも、苦渋の判断を行った次第です。感染状況に振り回される結果となり、皆さんには大変ご迷惑をおかけして恐縮ですが、どうぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

今回いったん開催を中止しましたが、皆さんが様々な活動の中で努力してきたことを発信する機会として五月祭が重要なイベントであることに変わりはありません。今後も、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、より安全なかたちでの五月祭開催を実現すべく、引き続き皆さんと相談する場を設けたいと考えています。

2021年5月10日

学生支援担当理事・副学長 藤垣裕子
東京大学 新型コロナウイルス対策タスクフォース座長／
理事・副学長 大久保達也